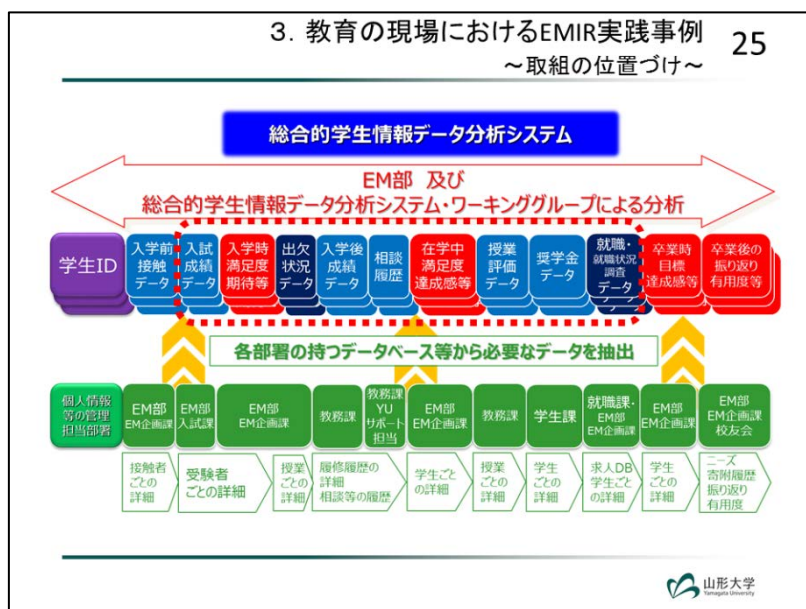


山形大学における EMIR の 10 年 教育の現場における EMIR 実践事例

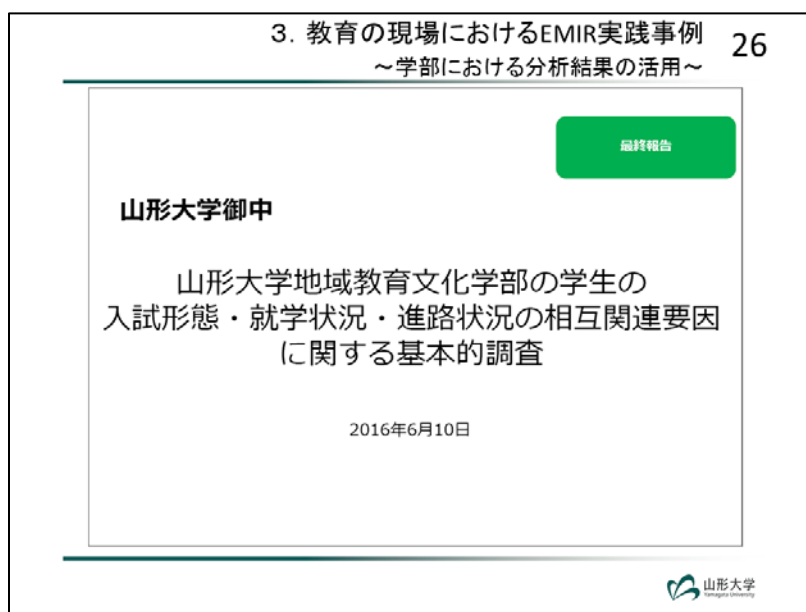
佐々木正彦



こんにちは。山形大学
地域教育文化学部の
佐々木でございます。
4年ぐらいになります
でしょうか。EMのこと
に関わりまして。学部
の入試のいろんな形態
が、GPAもGPSとどん
な関係がどうなってい
るのかとか、あと出口
ですね。この3つがど
ういうふうに関係する
のか、EMのスタッフの

方と連携しながら、いろいろと話をさせていただいたのが、4年ぐらい前だったんじゃないかというふうに思っています。そのときに一つ、やっぱり個人データとして、欠けていたデータがありました。進路についての確実な個人データをどうやって取るのか。つまり3月の末の時点でデータは集まってくるはずなんですけれども、なかなかそこでもデータが

集まらなくて、結局4月まで入って、それをフォローしながら、就職支援の担当の事務の方々が苦勞して集めているというような状況がありました。それで、1月の卒業論文を提出するときに、進路に関するアンケートに答えなければ、いわば卒業論文を提出できないという仕組みを作らせていただきました。ほぼ



数名だけあとは3月まで待つぐらいのことで、進路の個人データがそろえることができました。そのような形でさせてもらっております。

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 27 ～学部における分析結果の活用～

- 山形大学地域教育文化学部におけるIR調査は本学EM部と連携して実施している。本年度で4年目となる。
- 本年度(2016年度)の卒業生全員に対して「進路アンケート」は、2017年1月31日(火)の卒業論文等の提出時に実施する。卒業論文のほか卒業作品等の提出に合わせて進路アンケートを実施し、1月時点での進路捕捉率を向上させた。現在ほぼ100%の捕捉率となっている。
- ねらい: 入試・修学・進路の相互の関わりを知ることにより、学部レベル、コースレベル、研究室レベルの学生個々へのオリエンテーション・指導に生かす。
- 調査結果の説明及び配布: 学部教員全員への調査報告書の配布及び教授会・委員会での担当委員による説明を通して調査内容の共有化をしている。
- 2年生及び3年生の「保護者保護者懇談会」において、GPAと就職の関連などについて、調査結果に基づいて、情報の提供を行っている。
- EM部と「進路アンケート」調査の項目について、打ち合わせを緊密にし、改善を図っている。



今年度で4年目になります。今年度も1月30日と31日の卒業研究の提出時に、進路のアンケートをすべての学生に実施いたします。進路捕捉の率を向上させることが、この方式によってできております。現在は、最終的にはほぼ100%の捕捉となっております。IR調査のねらいは、先ほど

申し上げましたように、入試、それから就学、進路の相互の関わりを知ることによって、学部レベル、それから学科レベル、コースレベル、それから研究室レベルの学生へのオリエンテーションや指導に生かすということになります。学生は学部でがんばっているいろんな情報を提供しても、最終的には、進路に関しては、研究室の先生にいろんな情報を聞きながら決定していくというようなことがよくあります。そのさい、その研究室の先生方一人一人が、正しい、いわばデータに基づいた知識を持って指導するということが極めて重要であると考えております。学生の個人データに基づいたIR調査の結果については、学部教員全員への教授会、または委員会での担当員に説明をさせて活用を図っています。

昨年度は81ページの調査の報告書ですが、それを全部の教員に配付しております。それから2年生・3年生で、我が学部は、保護者懇談会をしておりますが、そのときに特にGPAと就職の関係などについて、調査結果に基づいた情報の提供を行っています。GPAが何ポイントだなどと言っても、保護者の方々はなかなか食いついてきません。そこで、このGPAのポイントは、就職とこう関わるんですよと言うと、飛びついてきます。保護者から質問も出ます。それから重要なのは、EM部と進路アンケートの調査の項目について、毎年毎年、その改善点について話し合っ、打ち合わせをして、それを改善していくということが非常に重要だと思っております。何しろ81ページありますので、その中から20分間で今日は説明しますが、その中で、ポイントをまとめさせてもらっております。

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 28 ～学部における分析結果の活用～

IR(総合的学学生情報データ分析)平成27年度調査のポイント

1. データから見える全体的傾向

【学部全体の基本的傾向：経年比較】

- ・出身県構成比(学部全体) [「山形県」出身者が年々減少傾向にある【リンク①】](#)
【2013年度】48%【2014年度】43%【2015年度】41%
- ・進路決定率・進路決定率は上昇傾向にある
【2013年度】80%【2014年度】83%【2015年度】85%

【学部全体のGPA傾向】

- ・学部平均GPAは2.8、GPA3.0以上の学生が4割超
- ・全体として、GPAは1年後期が底辺となり、その後3.0に近づく

【入試形態とGPA：全体的傾向】

- ・推薦入試のGPAは高い
- ・前期入試：1年後期の下がり大きく、2年前期での立ち上がりも大きい
- ・後期入試：1年後期の下がり少なく、2年後期で前期入試の学生のGPAに追いつく

【就職関係の学部全体の傾向】

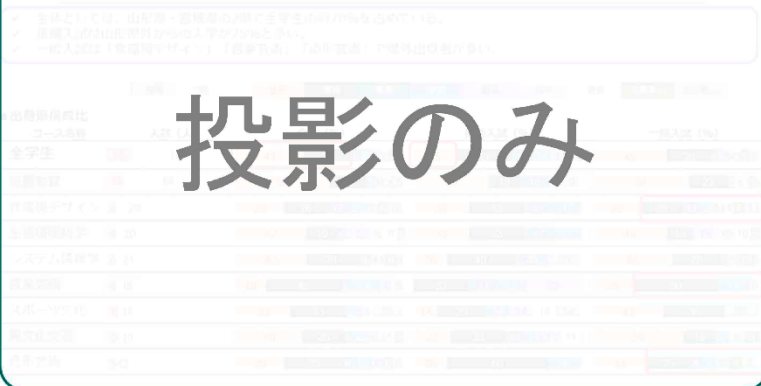
- ・入学時の志望通りの進路に就いた卒業生は44%（前年度【2014年度】49%）
- ・学部全体では、「教員」を入学時点で志望49%→そのうちの81%が教員に就職



まずデータから見える全体的傾向としては、まず出身県なんですが、山形県出身者が、山形大学だから多いだろうということなんですが、山形県出身者が年々減少傾向にあることが、結果を見て分かります。パーセンテージはそこに書かせてもらっています。ちょっと実際の調査結果を見てみたいと思います。リンク1で。公開を前提としておりませんので、配付の資料ではマスキングさせてもらっていますが、ここではプレゼンの画面だけで示させていただきます。他のデータとの比較において、2年の経年比較をして、どんどん少なくなっているんだということが分かります。山形県と宮城県で学部学生の約70%を占めているとかですね。推薦入試は山形県・宮城から入学が75%と多いとか。コースごとによって、その県内出身者が多いとかという、このようなデータが結果的に出ております。

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 32 ～学部における分析結果の活用～

2. 対象とするデータから見える基本情報(2/10)



[リンク前に戻る](#)



全体のGPAの傾向ですけれども、それぞれの出口との関係は、次のページから説明させていただきますが、全体のGPAは平均が2.8、それから3.0以上の学生が4割強、4割を超える状況にあります。また、全体的にそうなんですが、GPAは1年の後期に底になりました、その後3.0に向かって近づいていくという傾向がみられます。それから入試形態とGPAの関係ですが、推薦入試のGPAは比較的高い。前期入試入学者は、1年後期のGPAの低下が大きく、反面、2年前期での立ち上がり大きい。それから後期入試に関しまして、1年後期の下がり少なく、2年後期で前期入試の学生に追いついていくというような傾向

向がみられました。

就職関係の学部全体の傾向としましては、2項目を挙げさせてもらっています。入学時点の志望どおりの進路に就いた学生は、全体で44%であり、前年度は49%ということになっておりますので、若干下がっているということです。学部全体では、教員を入学時点で志望したのは49%ですが、そのうちで31%が教員になっています。

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例

～学部における分析結果の活用～

29

2. 教員採用に関する分析から

【過去2年間との比較】

- ・ 志願者と採用者の関連：全学生における志願者の割合は2014年度と同水準
【2013年度】24%【2014年度】28%【2015年度】29%
- ・ 志願者に対する採用率は2014年度に比べ大幅に上昇
【2013年度】53%【2014年度】51%【2015年度】64%
- ・ 出身地と採用可否の関連：山形県出身者採用率は3年連続で全体平均を上回る
【2013年度】56%【2014年度】53%【2015年度】77%
- ・ GPAと採用可否の関連：
GPAランクが3.0を境に大きく教員採用率が異なる傾向（3年連続の傾向） [【リンク②】](#)
GPAとの関連：GPA3.0以上の採用率は80%と全体64%に対して高い

【就職支援関係】

- ・ 教員採用試験対策セミナーと採用可否の関連：教員面接セミナーは参加回数が増えるほど、採用率が高くなり、5～7回参加者の採用率は81%となる [【リンク③】](#)
- ・ 教員採用試験全国公開模試参加者の採用率は全体64%に対して75%と高い
- ・ 教員面接セミナー（ガイダンス）の参加有無が教員採用に最も大きく寄与する
- ・ 教員面接セミナーに参加しセンター試験（外国語）が135.2点以上の学生の採用率は100%

【教員採用と入試形態の関連】

- ・ 入試区分と採用可否の関連では、入試区分ごとの傾向の差異はみられない



次に、教員採用に関する分析からポイントを申し上げます。過去2年との比較を申し上げます。志願者と採用者の関係ではありますが、全学生における志願者の割合は、2014年度と同水準でありました。志願者に対する採用率は、2014年度に比べて大幅に上昇しております。教員に関しての採用

の枠が少し拡大したという感じを持ちます。出身地に関してですが、山形県出身の採用率が3年連続で全体平均を上回っております。山形県内の受験生で、山形県の教員を目指すという、目指したいという学生を、いかに我が大学の方に関心を向けさせるか、入学させるかということが、極めて重要だというふうに見えてくるデータです。GPAと採用可否の関係ですが、GPAのランクが、3.0を境に、採用の率が大変異なっております。3.0以上ですと、採用率は80%と、全体の64%に対して非常に高くなる。教員採用試験を受ける学生で、採用を目指す学生は、GPAのランクが3.0以上ということを目指しなさいということになろうと言えます。

リンク先を見てもみます。学年全体の平均GPAが3.0から3.5、3.5から4.0とGPAが上昇すれば、採用率が上がっています。また、1年から3年の後期までのGPAの推移を見ましても、2年の後期で3.0に達していて、それが3年の前期・後期に3.2と伸びていくと。こういうパターンが教員採用に結び付くということが言えます。それから2年の後期で、この平均の取得単位数GPSの観点から、2年の後期で非常にしっかりと学んでいると、頑張っていると、これがまた採用に結び付くという結果が出ております。

戻りまして、就職支援関係ですが、学部で行っています教員採用試験対策セミナーという就職支援活動がございますが、それに参加している学生は、その参加の回数が増える

33



山形大学
Yamaguchi University


山形大学
Yamagata University

ほど採用率が高くなっている。ちょっと見てみたいと思います。上のグラフです。これではないですね。失礼しました。セミナーもちょっと下に下がっているように矢印が見えますが、実際は7回から8回参加しますと、グラフがどんどんどんどん黒い、マークされている採用率が多くなっております。特に教採面接セミナーの全体的な初

30

- 志願者と公務員採用者の関連：
 - 志願者の割合は3年間で最低水準
【2013年度】14%【2014年度】17%【2015年度】12%
- 志願者における公務員採用率は2014年度と同水準
 - 【2013年度】55%【2014年度】59%【2015年度】59%
- 入試区分と公務員採用可否の関連
 - 2年連続で「推薦入試」の採用率が全体平均よりも高い
【2014年度】63%【2015年度】100%
 - 一方、2年連続で「後期入試」の採用率が全体平均を下回る
【2014年度】44%【2015年度】40%
- GPAと公務員採用可否の関連 [\[リンク④\]](#)
 - 過去2年間はGPAランクが高くなるほど採用率も上昇する傾向
GPA2.5～3.0の採用率が最も高かった。

次に公務員の採用に関する分析からポイントだけを説明させていただきます。過去2年間との比較でございますが、特に青いところですが、志願者における公務員採用率は、2014年と同水準であったということが分かります。また、入試区分と公務員の採用の可否の関連ですが、2年連続で推薦入試の学生の公務員採用が全体平均よりも高いことがわかります。これに関しても、印象として、感覚的にい

35



山形大学
Yamagata University

ろいろとあるわけですが、実際にやはりデータとして出てくると、これも2年連続で出てきたデータでございますので、こういうデータに基づいて、いろいろと指導というものが有り得るということでございます。一方、2年連続で後期入試の採用率が、全体の平均を下回っているという、こういうデータが出ております。それからGPAと、公務員試験の可否でございますが、リンク4を見てみます。先ほどの教員ですと、これが上がれば上がるほど採用率が上がっていったんですけれども、どうもそうではないということがデータの言えます。GPAが2.5から3.0、ここが最も高いという結果になっております。GPA推移と採用可否の関連では、採用者のGPAは、2年の後期ですね、3.0以上をマークして推移している。2年の後期でやっぱり3.0をマークして、そして伸びているものが公務員採用率が比較的高いということが言えます。

31

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

4. 一般企業に関する分析から

【過去2年間との比較】

- ・一般企業就職者と就活:
一般企業に就いた就職活動が内定につながる傾向(3年連続)
- ・入試区分と採用可否の関連:
「推薦入試」の一般企業採用率が全体平均よりも高い(3年連続)
【2013年度】55%【2014年度】47%【2015年度】51%
- ・出身県一般企業採用の関連:
「教員」「公務員」採用者と比べ、地元採用が少ない傾向(3年連続)
【2013年度】34%【2014年度】42%【2015年度】37%
- ・GPAと優良企業の関連:【リンク5】
2014年度はGPA3.0以上の学生において優良企業採用率が高く、優良企業採用者のGPAはその他一般採用者よりも高い傾向がみられた。

今年度は優良企業採用者のGPAがその他一般企業採用者に比べて高いとはいえない。
優良企業採用の要因はGPA以外にあるといえる。

以上が、3. 教育現場におけるEMIR実践事例（山形大学地域教育学部の事例）です。 ご清聴ありがとうございました。

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

次に、一般企業の採用に関する分析に移らせていただきます。過去2年との比較で、一般企業に絞った就活をしている者が内定につながっている傾向がやっぱり3年連続でみられた。それから推薦入試の一般企業採用率が全体平均よりも高い。これも3年連続でみられた。また、教員・公務員採用者と比べますと、一般企業については、地元採用が少ない傾向、これも3年連続でみられたというような結果が出ております。リンクの次は優良企業との関連ですが、リンク5を見たいと思います。上でまとめてありますように、GPAの3.0以上の優良企業で

すね。採用率は全体の38%に対して36%であって、GPAが高いほど優良企業に就職するということは言えないというようなデータが出ております。どうも優良企業の採用に関しては、GPA以外に何らかのフ

36

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

5. 一般企業採用に関する分析 (4/11)

・GPA 3.0以上の優良企業・採用率は全体的に36% (13人)であり、GPAが高いほど優良企業採用率が上がるとはいえない。
・優良企業採用者のGPAはその他一般企業採用者と比べて高いとはいえない。優良企業採用の要因はGPA以外にあるといえる。

※一般企業就職者における、GPAランクと優良企業採用の関連

GPAランク	人数 (人)	割合 (%)
3.5以上	1	7.7
3.0～3.5	2	15.4
2.5～3.0	3	23.1
2.0～2.5	2	15.4
1.5～2.0	1	7.7
1.0以下	2	15.4

※一般企業就職者における、平均GPA推移と優良企業採用の関連

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

リンク前に戻る

アクターがあるとなります。今後さらに項目等を検討しながら、調査を続けていくということになろうかと思います。以上、3年間調査をいたしました。今年で4年になります。その中から見えてきましたポイントについて説明させていただきました。以上です。

御清聴ありがとうございました。